

●● 市立豊中病院 心臓病センター

当院の心臓病センターでは、循環器科、心臓血管外科の医師をはじめ看護師、技師、栄養士や薬剤師などが密に連携を取りながら患者さんの治療にあたっています。心臓や血管の病気は、一旦発症すると急激に病状が進み、命の危険があります。特に急性心筋梗塞や急性心不全は致命率が高く恐ろしい病気ですので、すばやい治療のためにチームワークがかかせません。

●24時間対応の心臓救急

当院では、外来診療のほかに循環器急性疾患に対して専門の医師が24時間体制で救急対応しています。不安定狭心症や急性心筋梗塞の患者さんは直ちにカテーテル治療が必要です。

診断がつくと直ちに冠動脈造影検査を行い、詰まった血管を広げるインターベンション手術※1（ステント留置術※2）が行われます。その後はCCUと呼ばれる循環器疾患専用の集中治療室で集中的な治療が行われます。



カテーテル治療中

※1 インターベンション手術：
身体に大きな傷をつけることなく行う治療法。

※2 ステント留置術：ステントという金属の筒を血管に置き、血管の中を拡がった状態に保持する。



パイプラインアンギオ装置
(X線透視装置)

●患者さんの負担を軽減（低侵襲造影検査）

当院では平成21年秋からカテーテル検査、治療を行うためのX線透視装置を新しく更新しました。放射線被爆が少なく短時間で検査を終えることができるようになり、さらに身体に優しい検査治療が行えるようになりました。造影剤の使用量も少ないため、腎臓の機能が悪い方にも安心して検査を受けていただけます。

カテーテルによる虚血性心疾患の手術も平成21年度は282件が行われ、ますます増加傾向です。

●● 地域の医療機関との連携

当院は地域の中核病院として診療所から紹介された急性疾患に速やかに対応し高度な治療ができるよう努力を続けています。

多くの循環器疾患は退院後も継続した通院加療が必要です。当院では心筋梗塞などの急性期治療を行って退院された後は「かかりつけ医」と密接な連携をとりながら慢性期の治療を継続するシステムをとっています。

最近では従来からの紹介状に加え、クリニカルパスとよばれる方法が取り入れられています。これは患者さんが持参されたノートにかかりつけ医と病院の主治医が交互に検査値や病状を記載し、もれなく病気の管理が行えるよう工夫されたものです。また、症状が悪化した際には円滑に入院加療が行えるよう日頃から密接な連携を行っています。

